(19)日本国特許庁(JP)

# (12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7659812号
(P7659812)

(45)発行日　令和7年4月10日(2025.4.10)

(24)登録日　令和7年4月2日(2025.4.2)

(51)国際特許分類
*Ａ４５Ｃ　11/34　(2006.01)*

ＦＩ
Ａ４５Ｃ　11/34　１０２Ａ

請求項の数　6　（全13頁）

(21)出願番号　特願2021-92506(P2021-92506)
(22)出願日　令和3年6月1日(2021.6.1)
(65)公開番号　特開2022-184568(P2022-184568A)
(43)公開日　令和4年12月13日(2022.12.13)
審査請求日　令和6年5月29日(2024.5.29)

(73)特許権者　593093423
クツワ株式会社
大阪府大阪市中央区南久宝寺町１丁目３番９号
(74)代理人　100089026
弁理士　木村 高明
(72)発明者　橡尾 洋介
大阪府大阪市中央区南久宝寺町１丁目３番９号 クツワ株式会社内
審査官　大内 康裕

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　文房具ケース

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

平面方形のトレー状であって、厚さ方向両側に文房具を収納可能な一対の凹部を有するケース本体と、

前記ケース本体の幅方向一端面部を被覆して接合され、幅方向に折り曲げられた状態で前記一対の凹部を開閉可能に塞ぐ蓋部材とを有し、

前記蓋部材は、

面状に形成された芯材と、

前記凹部に対して前記芯材の遠位側に配置され、前記芯材の表面側に当接して前記芯材を覆う表生地と、

前記凹部に対して前記芯材の近位側に配置され、前記芯材の裏面側に当接して前記芯材を覆う内生地と、

前記ケース本体の前記幅方向一端面部に対向して前記表生地の内側に配置される背板と、

面状に形成され、前記背板を前記ケース本体の幅方向一端面部において前記ケース本体の厚さ方向に横断するとともに、前記厚さ方向両端部を被覆して配置される補強材とを備えた文房具ケースであって、

前記芯材、前記表生地、前記内生地、前記背板および前記補強材は、透明又は半透明に形成され、

前記補強材は、前記芯材と前記内生地との間に配置され、

前記ケース本体は、平面長方形状に形成され、

前記蓋部材は、前記ケース本体の一対の凹部を夫々被覆する一対の蓋部と、前記一対の蓋部の間に形成され、前記ケース本体の幅方向一端面部を被覆して接合される背部とにより構成され、
前記背板は、前記背部に配置されるとともに、前記芯材は、前記一対の蓋部のそれぞれを構成する一対の長方形板材からなり、各芯材の表面部および裏面部には、複数の凸条部が設けられ、
前記複数の凸条部は、表生地および内生地に当接する表面部及び裏面部に設けられていることを特徴とする文房具ケース。
【請求項２】
前記背部において、前記補強材は、前記背板と前記内生地との間に配置されていることを特徴とする、請求項１に記載の文房具ケース。
【請求項３】
前記補強材は、前記ケース本体に前記蓋部材を取付可能に開設された孔部を有することを特徴とする、請求項２に記載の文房具ケース。
【請求項４】
前記内生地および前記表生地は、ポリ塩化ビニル（ＰＶＣ）樹脂製であり、
前記芯材は、コポリエステル樹脂製であることを特徴とする、請求項１～３のいずれか一項に記載の文房具ケース。
【請求項５】
前記凸条部は、前記芯材の長さ方向に沿って形成されていることを特徴とする、請求項１記載の文房具ケース。
【請求項６】
前記補強材は、ポリウレタン製であることを特徴とする、請求項１～５のいずれか一項に記載の文房具ケース。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、開閉式の蓋部を備えた文房具ケースに関する。
【背景技術】
【０００２】
鉛筆等の収納物を外部から視認可能な文房具ケースがあると便利である。しかし、従来、中皿のみが透明に作られたものや、透明な素材で文房具ケースを構成すると便利であるとの一般的な知見が存在するのみであり、収納物を外部から視認可能とするという目的の明確な認識のもとで作製された文房具ケースについては知られていなかった。特許文献１には、筆箱等の文房具部品をポリエステル共重合体により形成することが記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】特開平０８－０３４１９２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかし、特許文献１には、筆箱等の文房具部品をポリエステル共重合体により形成することの一般的な利点として、透明性に優れた文房具部品が得られるとの漠然とした記載があるのみで、文房具部品ないし筆箱の具体的な構成、つまり、筆箱のどの部分を透明にするか、そして、その透明部分をどのような構成として文房具ケースを作製するかを明確にする記載を見出すことはできない。
従って、特許文献１から得られるのは、筆箱等の文房具部品に好適に適用可能な素材に関する情報のみであり、筆箱等の具体的な構成に関する情報については何ら言及されていない。

【０００５】
　このような実情に鑑み、本発明は、鉛筆等の収納物が外部から視認可能であって使用者が使いやすく、外観品質に優れ、さらに製造効率の点でも優れた文房具ケースを提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１に記載の発明にあっては、平面方形のトレー状であって、厚さ方向両側に文房具を収納可能な一対の凹部を有するケース本体と、ケース本体の幅方向一端面部を被覆して接合され、幅方向に折り曲げられた状態で一対の凹部を開閉可能に塞ぐ蓋部材とを有し、蓋部材は、面状に形成された芯材と、凹部に対して芯材の遠位側に配置され、芯材の表面側に当接して芯材を覆う表生地と、凹部に対して芯材の近位側に配置され、芯材の裏面側に当接して芯材を覆う内生地と、ケース本体の幅方向一端面部に対向して表生地の内側に配置される背板と、面状に形成され、背板をケース本体の幅方向一端面部においてケース本体の厚さ方向に横断するとともに、厚さ方向両端部を被覆して配置される補強材とを備えた文房具ケースであって、芯材、表生地、内生地、背板および補強材は、透明又は半透明に形成され、補強材は、芯材と内生地との間に配置され、前記ケース本体は、平面長方形状に形成され、蓋部材は、ケース本体の一対の凹部を夫々被覆する一対の蓋部と、一対の蓋部の間に形成され、ケース本体の幅方向一端面部を被覆して接合される背部とにより構成され、背板は、背部に配置されるとともに、芯材は、一対の蓋部のそれぞれを構成する一対の長方形板材からなり、各芯材の表面部および裏面部には、複数の凸条部が設けられ、前記凸条部は、表生地および内生地に当接する表面部及び裏面部に設けられていることを特徴とする。
【０００７】
請求項２記載の発明にあっては、背部において、補強材は、背板と内生地との間に配置されていることを特徴とする。
【０００８】
請求項３に記載の発明にあっては、補強材は、ケース本体に蓋部材を取付可能に開設された孔部を有することを特徴とする。
【０００９】
請求項４に記載の発明にあっては、前記内生地および前記表生地は、ポリ塩化ビニル（「ＰＶＣ」）樹脂製であり、前記芯材は、コポリエステル樹脂製であることを特徴とする。
【００１０】
請求項５に記載の発明にあっては、前記凸条部は、前記芯材の長さ方向に沿って形成されていることを特徴とする。
【００１１】
請求項６に記載の発明にあっては、前記補強材は、ポリウレタン製であることを特徴とする。
【発明の効果】
【００１２】
請求項１に記載の発明によれば、蓋部材を構成する部材、つまり、芯材、表生地、内生地、背板および補強材がいずれも透明または半透明であり、ケース本体の内部である凹部を、蓋部材を通じて文房具ケースの外部から視認可能であることから、鉛筆等の収納物に不足がないことを、蓋部材を開けることなく閉じたままの状態で確認することが可能となる。その結果、学童の、いわゆる「忘れ物」を未然に防止することが可能となる。
また、従来の文房具ケースとは異なり、蓋部材が透明または半透明に形成されていることから、文房具ケースそのものの外観品質に優れ、使用者は好んで使用するようになる。
【００１３】
さらに、補強材がケース本体の幅方向一端面部の厚さ方向両端部を被覆することから、開閉に伴う屈曲等の変形に対する蓋部材の耐性の向上を図るとともに、補強材が芯材と内生地との間に配置されていることから、補強材を文房具ケースの外部から過度に目立たせる

ことのないようにすることが可能である。
【００１４】
また、請求項１に記載の発明によれば、芯材が長方形板材からなり、芯材のうち、表生地および内生地に当接する表面部、裏面部に複数の凸条部が設けられていることから、複数の凸条部が表生地および内生地を通じて外部から視認可能となり、文房具ケースが有する外観の審美性の向上を図ることが可能である。
即ち、芯材と表生地及び内生地が双方ともに平滑な接着面同士であった場合には、製造作業において双方を密着させる場合に、慎重に密着させた場合であっても、接着面相互間に少量の空気が介在する部位が発生する場合がある。
このように空気が接着面に混入した場合には、外部からは気泡が小さな水溜まりのように視認される場合があり、外観品質確保の観点からは良好ではない事態があったが、本発明にあっては複数の凸条部が形成されていることから、芯材と表生地との接合の際の、接合部への空気の混入による気泡の形成を排除でき、かつ、複数の凸条部がデザイン上のアクセントとなることから、文房具ケースの外観品質の向上を図ることが可能となる。
【００１５】
また、表生地および内生地の素材にポリ塩化ビニル（以下「ＰＶＣ」と略す）樹脂を採用した場合には、ポリ塩化ビニルに含まれる可塑剤はプラスチック素材に溶融を生じさせる場合があり、このような事態を回避するために従来は、シボ加工を施し表面及び裏面が梨地に形成されたＰＶＣ樹脂製の表生地、内生地を使用しており透明性が損なわれるという問題があったが、本発明にあっては、芯材に複数の凸条部が形成されており、表生地及び内生地と芯材との間の接触面積を低減できることから、芯材の溶融の事態を回避することができ、表生地及び内生地の十分な透明性を確保することが可能となる。
【００１６】
請求項２に記載の発明によれば、背部において、補強材が背板と内生地との間に配置されていることから、蓋部材を閉じた状態で文房具ケースを外部からみた場合に、補強材が背板の裏側に隠れた状態となり、背面部から見た場合に補強材をより目立たなくして、外観品質をより良好なものとすることが可能である。
【００１７】
請求項３に記載の発明によれば、補強材に、ケース本体に蓋部材を取付可能に開設された孔部が備わることから、補強材が背板と内生地との間、つまり、補強材が背板よりもケース本体に近い位置に配置される構成にあっても蓋部材の作製後、蓋部材をケース本体に対して容易に取り付け、文房具ケースの製造を円滑に完了することが可能である。
【００１８】
請求項４に記載の発明によれば、内生地および表生地がＰＶＣ樹脂製であり、芯材がコポリエステル樹脂製であり、コポリエステル樹脂は耐薬品性が高いことから、ＰＶＣ樹脂に含まれる可塑剤の影響で芯材に溶融が生じるのを抑制することができる。その結果、蓋部材全体の透明性を良好に確保することが可能となり、外観品質を良好にすることが可能になるとともに、特に芯材がコポリエステル樹脂製であることから、耐衝撃性の点でも優れた文房具ケースを提供することが可能となる。
【００１９】
請求項５に記載の発明によれば、凸条部が芯材の長さ方向に沿って形成されていることから、芯材全長のほぼ全体に亘って延在する凸条部が蓋部材の表生地を通じて外部から視認可能となり、これが文房具ケースの模様を形成し、外観の審美性の向上を図ることが可能である。
【００２０】
請求項６に記載の発明によれば、補強材がポリウレタン製であることから、補強材に必要な透明性を確保しながら、蓋部材の折曲部またはヒンジ部分、具体的には、蓋部材の蓋部と背部との接合部の強度を確保し、比較的長期の使用にも耐え得る文房具ケースを提供することが可能である。
【図面の簡単な説明】

【００２１】
【図１】図１は、本発明の一実施形態に係る文房具ケースの平面図であり、文房具ケースの表側の外観を示す。
【図２】図２は、同上実施形態に係る文房具ケースの平面図であり、文房具ケースの表側に設けられた表側蓋部（蓋部材の蓋部）を開いた状態を示す。
【図３】図３は、同上実施形態に係る文房具ケースの底面図であり、文房具ケースの裏側に設けられた裏側蓋部（蓋部材の蓋部）を開いた状態で示す。
【図４】図４は、同上実施形態に係る文房具ケースに用いられる蓋部材の構成を示す分解斜視図である。
【図５】図５は、図４に示すＡ－Ａ線に沿った断面図である。
【発明を実施するための形態】
【００２２】
以下に図面を参照して、本発明の実施の形態について説明する。
【００２３】
図１は、本発明の一実施形態に係る文房具ケース１の全体的な構成を示す平面図である。図２は、文房具ケース１を上方ないし表側から見た図であり、図３は、文房具ケース１を下方ないし裏側から見た図である。図２は、文房具ケース１を、表側蓋部３１を開いた状態で示し、図３は、文房具ケース１を、裏側蓋部３２を開いた状態で示す。
【００２４】
図２および３を参照しながら、本実施形態に係る文房具ケース１について、図１により説明する。ここで、図１は、ケース本体２の凹部２１およびこれに収まる収納物を二点鎖線により示し、文房具ケース１の蓋部材３全体、特に表側蓋部３１、裏側蓋部３２が透明または半透明であることから、凹部２１、つまり、文房具ケース１の内部が蓋部材３を通じて外部から視認可能であることを示す。
【００２５】
本実施形態では、文房具ケース１を、子どもが学校または家庭等で教材として使用する鉛筆またはペン、消しゴムおよび定規等の文房具セットを収納する収納具として構成される場合について説明する。しかし、文房具ケース１は、これに限らず、大人等、子ども以外の年齢層を対象とした収納具として構成することが可能であり、さらに、文房具セットではなく、鉛筆またはペンのみを収納する収納具や、定規のみを収納する収納具等、特定の文房具の収納を目的とした収納具として具現することも可能である。
【００２６】
文房具ケース１は、ケース本体２と、ケース本体２に取り付けられ、ケース本体２の表側および裏側のそれぞれに設けられた一対の凹部２１を塞ぐ蓋部材３とを備える。
【００２７】
ケース本体２は、平面方形のトレー状をなし、その厚さ方向両側、つまり、表側および裏側のそれぞれに文房具を収納可能な凹部２１を備える。凹部２１は、大まかには、平板状の底面部２１１と、底面部２１１の全周縁部に設けられた側面部２１２とにより形成され、側面部２１２によりその端縁に形成される開口部を介して凹部２１に文房具を収納することが可能である。
【００２８】
本実施形態において、ケース本体２は、薄型直方体状をなし、凹部２１として、ケース本体２の表側に形成された表側凹部２１ａと、裏側に形成された裏側凹部２１ｂとを有する。
具体的には、表側凹部２１ａは、図２に示すように、底面部２１１と、側面部２１２のうち、底面部２１１の外周縁部にその全体に亘って上向きに延設された部分とにより形成され、側面部２１２の上端により長方形状の開口部が形成される。他方で、裏側凹部２１ｂは、図３に示すように、底面部２１１と、側面部２１２のうち、底面部２１１の外周縁部にその全体に亘って下向きに延設された部分とにより形成され、側面部２１２の下端により同じく長方形状の開口部が形成される。

【００２９】
本実施形態において、表側凹部２１ａは、複数の空間に分割して形成されており、異なる文房具の収納に対応可能である。具体的には、表側凹部２１ａは、鉛筆の収納を主な目的とする第１空間Ｓ１と、消しゴムの収納を主な目的とする第２空間Ｓ２と、その他の文房具の収納を目的とする第３空間Ｓ３とに分割されている。
これらの空間Ｓ１からＳ３は、収納対象物である文房具の大きさに合わせてその広さおよび深さが適宜に設定されている。他方で、裏側凹部２１ｂは、分割されておらず、定規の収納を主な目的とする単一の空間Ｓ４として形成されている。表側凹部２１ａだけでなく、表側凹部２１ａと裏側凹部２１ｂとの双方を複数の空間に分割することも可能であるし、表側凹部２１ａに代えて裏側凹部２１ｂを分割することも可能である。
【００３０】
蓋部材３は、ケース本体２とは別体に作製され、作製後、ケース本体２の幅方向一端面部２２に取り付けられることにより、幅方向に折り曲げられた状態でケース本体２の表側凹部２１ａおよび裏側凹部２１ｂを覆い、これらの凹部２１ａ、２１ｂを夫々開閉可能に塞ぐ。
【００３１】
具体的には、蓋部材３は、ケース本体２全体に亘って平面方向に延在し、表側凹部２１ａを塞ぐ表側蓋部３１と、ケース本体２全体に亘って平面方向に延在し、裏側凹部２１ｂを塞ぐ裏側蓋部３２と、表側蓋部３１および裏側蓋部３２の間に介在し、表側蓋部３１と裏側蓋部３２とを連接するとともに、ケース本体２に対し、その幅方向一端面部２２を被覆して接合される背部３３とを有する。
蓋部材３は、ケース本体２の幅方向一端面部２２に対し、背部３３を介して接合される。この状態で、表側蓋部３１および裏側蓋部３２は、いずれも背部３３との接合部を中心として回動または屈曲可能な状態にある。
【００３２】
図４は、本実施形態に係る文房具ケース１に用いられる蓋部材３の構成部材を示す分解斜視図であり、図５は、図４に示すＡ－Ａ線に沿った蓋部材３の芯材３０１（第１芯材３０１ａ）の断面図である。
【００３３】
本実施形態において、蓋部材３は、芯材３０１と、表生地３０２と、内生地３０３と、背板３０４と、補強材３０５とにより構成され、これらの部材３０１～３０５を図４に示す順序で重ね合わせ、適宜箇所に熱溶着を施すことにより互いに接合する。熱溶着を施す箇所は、例えば、表生地３０２および内生地３０３の外周縁部であり、さらに、表側蓋部３１の芯材（第１芯材）３０１ａと背板３０４との間の接合領域、裏側蓋部３２の芯材（第２芯材）３０１ｂと背板３０４との間の接合領域である。
【００３４】
芯材３０１は、平面長方形状の単一の板状部材として形成され、芯材３０１として、表側蓋部３１および裏側蓋部３２を構成する一対の芯材、つまり、第１芯材３０１ａおよび第２芯材３０１ｂにより構成される。
第１芯材３０１ａは、表側蓋部３１全体に亘って平面方向に延在し、表生地３０２および内生地３０３の対応部分とともに表側蓋部３１を構成する。第２芯材３０１ｂは、裏側蓋部３２全体に亘って平面方向に延在し、表生地３０２および内生地３０３の対応部分とともに裏側蓋部３２を構成する。本実施形態において、第１および第２芯材３０１ａ、３０１ｂは、いずれも再生コポリエステル（商標名：「ペプロレン」）樹脂製であり、互いに同一の平面および断面形状を有する。
【００３５】
表生地３０２は、蓋部材３の平面方向全体に及ぶ面積を有するシート状をなし、ケース本体２の凹部２１に対して芯材３０１の遠位側に配置され、芯材３０１の表面側に当接して芯材３０１全体を表側から被覆する。本実施形態において、表生地３０２は、ＰＶＣ樹脂製であり、蓋部材３の最外層を形成する。

【００３６】
内生地３０３は、表生地３０２と同様に蓋部材３の平面方向全体に及ぶ面積を有するシート状をなし、ケース本体２の凹部２１に対して芯材３０１の近位側に配置され、芯材３０１の裏面側に当接して芯材３０１全体を裏側から被覆する。本実施形態において、内生地３０３は、ＰＶＣ樹脂製であり、蓋部材３の最内層を形成する。
【００３７】
ここで、芯材３０１ａ、３０１ｂは、表生地３０２の裏面ないし下面の方向に向く表面部ｓ１と、内生地３０３の裏面ないし上面の方向に向く裏面部ｓ２とを有し、表面部ｓ１および裏面部ｓ２のそれぞれに、芯材３０１ａ、３０１ｂから離れる方向に凸となる複数の凸条部ｐ１を有する。芯材３０１ａ、３０１ｂは、これら複数の凸条部ｐ１を介して表生地３０２、内生地３０３に当接する。
換言すれば、本実施形態において、芯材３０１ａ、３０１ｂは、凸条部ｐ１を除く他の部分では、表生地３０２および内生地３０３に対して非接触の状態にある。
【００３８】
図５は、本実施形態に係る凸条部ｐ１の構成を、第１芯材３０１ａに設けられる凸条部ｐ１を例に、図４に示すＡ－Ａ線に沿った断面により示す。先に述べたように、第１芯材３０１ａと第２芯材３０１ｂとは、互いに同一の断面形状を有することから、各芯材３０１ａ、３０１ｂの幅方向における凸条部ｐ１の位置は、第１芯材３０１ａと第２芯材３０１ｂとで同一である。
【００３９】
本実施形態において、凸条部ｐ１は、互いに平行に延設された複数のリブ部として形成され、図４に示すように、平面長方形状の第１芯材３０１ａの長さ方向全体に亘って延在する。凸条部ｐ１は、芯材３０１ａの表面部ｓ１および裏面部ｓ２の双方に形成され、表面部ｓ１の凸条部ｐ１と裏面部ｓ２の凸条部ｐ１とは、互いに同一の幅方向位置にあり、第１芯材３０１ａの平面に対して垂直な方向において、互いに重なり合う位置にある。これに限らず、表面部ｓ１の凸条部ｐ１と裏面部ｓ２の凸条部ｐ１とは、互いに対して幅方向にずれた位置にあってもよい。
【００４０】
図４に示すように、背板３０４は、細長長方形状の薄型板材として形成され、表生地３０２の内側において、表生地３０２の幅方向中央の位置で、第１芯材３０１ａと第２芯材３０１ｂとに挟まれた状態で配置され、本実施形態では、表生地３０２の裏面に当接した状態で配置される。
これにより、文房具ケース１において、背板３０４は、ケース本体２の幅方向一端面部２２に対向して配置される。ここで、図４は、表生地３０２を内生地３０３の下方に示しており、よって、図４の上側が蓋部材３の裏側、つまり、ケース本体２に対する近位側となる。本実施形態において背板３０４はポリプロピレン（ＰＰ）製である。
【００４１】
さらに、背板３０４は、長さ方向の所定位置に、ケース本体２に対する取り付けのための孔部を有する。
【００４２】
補強材３０５は、背板３０４よりも幅が広く、面状に、具体的には、背板３０４とほぼ同じ長さの長形シート状に形成され、蓋部材３の背部３３において、背板３０４と内生地３０３との間に配置される。本実施形態では、第１芯材３０１ａ、第２芯材３０１ｂおよび背板３０４が横並びに配置されることから、補強材３０５の位置は、芯材３０１ａ、３０１ｂと内生地３０３との間である。
補強材３０５は、背板３０４をその幅方向、換言すれば、ケース本体２の幅方向一端面部２２においてケース本体２の厚さ方向に横断するのに充分な幅を有し、文房具ケース１の作製後、ケース本体２の幅方向一端面部２２の厚さ方向両端部２２ａ、２２ｂ（図２、３）のそれぞれを被覆する。これにより、表側蓋部３１および裏側蓋部３２の開閉に伴う蓋部材３の屈曲に対する耐性が高められる。本実施形態において、補強材３０５は、ポリ

ウレタン製である。

【００４３】

さらに、補強材３０５は、ケース本体２に対する取り付けのため、背板３０４に形成された孔部と同じ長さ方向の位置に複数の孔部ｈ１を有する。補強材３０５の孔部ｈ１は、背板３０４の孔部および内生地３０３の孔部とともに、ケース本体２の幅方向一端面部２２に対する取付孔部を形成する。ケース本体２の幅方向一端面部２２に形成された鉤部（図示せず）がこの取付孔部に係合することから、ケース本体２に孔部ｈ１が開設された背板３０４が固定され、これによりケース本体２と蓋部材３とが接合される。

【００４４】

第１芯材３０１ａ、第２芯材３０１ｂ、背板３０４および補強材３０５が表生地３０２、内生地３０３により上下から挟み込まれ、適宜箇所における熱溶着により接合されることから、蓋部材３が形成される。本実施形態では、第１芯材３０１ａ、第２芯材３０１ｂ、表生地３０２、内生地３０３、背板３０４および補強材３０５がいずれも透明または半透明であることから、蓋部材３は、その全体が透明または半透明に形成され、厚さ方向に視覚的な透過性を有する。その結果、文房具ケース１は、凹部２１、即ち、その内部が蓋部材３を通じて外部から視認可能となっている。

【００４５】

図１、図２および３に示すように、ケース本体２は、側面部２１２のうち、幅方向一端面部２２である長辺部とは反対側の長辺部に、磁石部２ａが設けられている。磁石部２ａの構成は、磁石吸着式の従来の文房具ケースないし筆箱に採用されるものと同様であり、その詳細な説明を省略する。

【００４６】

これに対し、表側蓋部３１および裏側蓋部３２は、これらの蓋部３１、３２を閉じた際に磁石部２ａに当接する部位に、磁石部２ａに磁気吸着可能な磁着体３１ａ、３２ａが設けられている。磁着体３１ａ、３２ａは、金属等の磁性材から作製することが可能であり、表側蓋部３１、裏側蓋部３２は、磁着体３１ａ、３２ａがケース本体２の磁石部２ａに磁気吸着することから、凹部２１ａ、２１ｂを塞いだ状態でケース本体２に固定される。他方で、磁着体３１ａ、３２ａを磁石部２ａから離すことにより磁着体３１ａ、３２ａの磁石部２ａへの磁気吸着を解消した場合には、表側蓋部３１、裏側蓋部３２の当接部位がケース本体２から離間し、表側蓋部３１又は裏側蓋部３２が開き、凹部２１ａ、２１ｂが開放される。

【００４７】

以上に加え、本実施形態では、表側蓋部３１の裏面に、透明または半透明な素材からなるポケット部３１１をさらに備えることから、透明または半透明であることに基づく外観の優位性を保ちながら、ポケット部３１１に定規または時間割を入れたり、メモを入れたり、シール等を挟み、外方から視認して装飾的効果を楽しんだりすることが可能となる。

ポケット部３１１は、表側蓋部３１に代えて裏側蓋部３２の裏面に設けたり、表側蓋部３１と裏側蓋部３２との双方の裏面に設けたりすることも可能である。ポケット部３１１に適用可能な素材として、ＰＶＣ樹脂を例示することができる。

【００４８】

本実施形態に係る文房具ケース１は、以上のように構成され、本実施形態により得られる作用及び効果について以下に説明する。

【００４９】

第１に、蓋部材３を構成する部材、つまり、芯材３０１（３０１ａ、３０１ｂ）、表生地３０２、内生地３０３、背板３０４および補強材３０５がいずれも透明または半透明であることから、ケース本体２の内部である凹部２１（２１ａ、２１ｂ）を、蓋部材３を通じて文房具ケース１の外部から透視可能である。

これにより、鉛筆等の収納物に忘れ物がないか否かを、蓋部材３を開けることなく、閉じたままの状態で確認することが可能となる。そして、凹部２１が透視可能であり、収納物が視認可能であることから、表側蓋部３１又は裏側蓋部３２のいずれを開けて収容物を

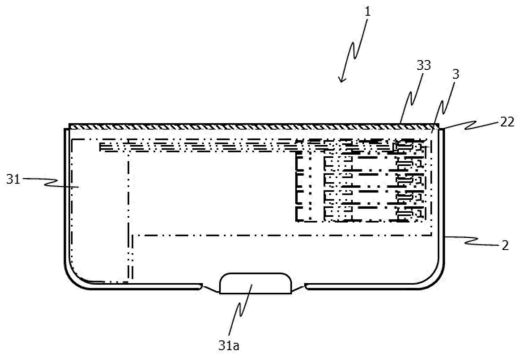
取り出すか又は収納するか、の判断が容易にできる。
【００５０】
さらに、強度の高いポリウレタン製の補強材３０５がケース本体２の幅方向一端面部２２の厚さ方向両端部２２ａ、２２ｂを被覆することから、開閉に伴う屈曲等の変形に対する蓋部材３の耐性の向上を図るとともに、補強材３０５が芯材３０１と内生地３０３との間に配置されていることから、補強材３０５を文房具ケース１の外部に目立たせることがない。
【００５１】
また、従来製品とは異なり、芯材３０１が単一の部材からなることから、加工および組み立てが容易であり、製造効率の点でも有利な文房具ケース１を提供することができる。
【００５２】
第２に、芯材３０１が長方形板材からなり、芯材３０１のうち、表生地３０２および内生地３０３に当接する表面部ｓ１、裏面部ｓ２に凸条部ｐ１が設けられていることから、凸条部ｐ１が表生地３０２および内生地３０３を通じて外部から視認可能となり、文房具ケース１が有する外観の審美性の向上、外観品質の向上を図り、需要を喚起することが可能である。
【００５３】
また、芯材３０１の表面部ｓ１および裏面部ｓ２に設けられた複数の凸条部ｐ１により、表生地３０２および内生地３０３に対する芯材３０１の接触面積の減少を図り、接着時における接着面間への空気の介入による気泡の発生を排除して外観品質の向上を図っている。
即ち、芯材３０１と表生地３０２及び内生地３０３が双方ともに平滑な接着面同士であった場合には、製造作業において、芯材３０１と表生地３０２及び内生地３０３を密着させる場合に、慎重に密着させた場合であっても、接着面相互間に少量の空気が介在する部位が発生する場合がある。
このように空気が接着面に混入した場合には、文房具ケース１の外部からは、表生地３０２及び内生地３０３を通して、気泡が小さな水溜まりのように視認される場合があり、外観品質向上の観点からは良好ではない事態があったが、本実施の形態にあっては芯材３０１ａ、３０１ｂに複数の凸条部ｐ１が形成され、凸条部ｐ1により内生地３０３及び表生地３０２とに接着するように構成されており、芯材３０１と表生地３０２及び内生地３０３との接合の際の、接合部への空気の混入による気泡の形成を排除できるため文房具ケースの外観品質の向上を図ることが可能となる。
【００５４】
さらに、表生地３０２および内生地３０３の素材にＰＶＣ樹脂を採用した場合には、ポリ塩化ビニルに含まれる可塑剤は、空気が少ない環境下で他のプラスチック素材と触れ続けると、そのプラスチック素材に溶融を生じさせる場合がある。
しかしながら、本実施の形態にあっては、芯材３０１ａ、３０１ｂは再生コポリエステル（商標名：「ペプロレン」）樹脂製であり、再生コポリエステル（商標名：「ペプロレン」）樹脂は高い耐薬品性を有し、かつ、本実施の形態にあっては、芯材３０１ａ、３０１ｂに複数の凸条部ｐ１が形成されており、表生地３０２及び内生地３０３と芯材ｐ１との間の接触面積を低減できることから、芯材ｐ１の溶融の事態を回避することができ、表生地３０２及び内生地３０３の十分な透明性を確保することが可能となる。
また、再生コポリエステル（商標名：「ペプロレン」）樹脂は耐衝撃性に富むことから、タフな使用に耐え、より耐久性を有する文房具ケース１を提供することが可能となる。
また、従来の製品では、シボ加工を施し表面及び裏面が梨地に形成されたＰＶＣ樹脂製の表生地３０２、内生地３０３を使用していたが透明性が損なわれるという問題があった。
しかしながら、本実施の形態にあっては、芯材３０１ａ、３０１ｂに複数の凸条部ｐ１が形成されていることから、十分な透明性を確保することが可能となる。
さらに、凸条部ｐ１の形成により、製造の過程で付いたりまたは入り込んだりすることのあるキズやほこりを目立たなくすることも可能となる。

【００５５】
第３に、背部３３において、補強材３０５が背板３０４と内生地３０３との間に配置されていることから、蓋部材３を閉じた状態で文房具ケース１をその外部から視認した場合に、補強材３０５が背板３０４の裏側に隠れた状態となることから、外観品質をより良好なものとすることが可能となっている。
この点、従来は、補強材３０５としてターポリン（繊維入りの塩化ビニルシート）製のメッシュ状の部材を用い、これを表生地３０２と芯材３０１、背板３０４との間に挟み込んだ構成としていたが、このようなメッシュ状の素材からなる部材は本件のような透明性を有する蓋部材には美観の観点から適切ではなく、本実施の形態の構成により外観品質の良好な製品構成とすることが可能となる。
【００５６】
第４に、補強材３０５に、ケース本体２に蓋部材３を取付可能に開設された孔部ｈ１が備わることから、補強材３０５が背板３０４と内生地３０３との間、即ち、補強材３０５が背板３０４よりもケース本体２に近い位置に配置された状態で蓋部材３の作製後、蓋部材３をケース本体２に対して容易に取り付け、文房具ケース１の製造を円滑に完了することが可能である。
【００５７】
第５に、表生地３０２および内生地３０３がＰＶＣ樹脂製であり、芯材３０１が再生コポリエステル（商標名：「ペプロレン」）樹脂製であることから耐衝撃性、耐薬品性及び透明性に優れ、ＰＶＣ樹脂に含まれる可塑剤の影響で芯材３０１に溶融が生じるのを抑制する効果と相まって、蓋部材３全体の透明性を良好に確保することが可能となる。
【００５８】
第６に、凸条部ｐ１が芯材３０１の長さ方向に沿って形成されていることから、芯材３０１全長のほぼ全体に亘って延在する凸条部ｐ１が蓋部材３の表生地３０２を通じて外部から視認可能となり、これが文房具ケース１の模様を形成し、外観の審美性の向上を図ることが可能である。
【００５９】
第７に、補強材３０５がポリウレタン製であることから、透明性を確保しながら、蓋部材３の折曲部またはヒンジ部分、具体的には、蓋部材３のうち、表側蓋部３１と背部３３との接合部および裏側蓋部３２と背部３３との接合部に必要な強度を確保し、比較的長期の使用にも耐え得る文房具ケース１を提供することが可能である。
【００６０】
以上の説明では、図５（ａ）に示すように、芯材３０１の凸条部ｐ１としてリブ部を採用した。凸条部ｐ１は、これに限定されるものではなく、他の形態または断面形状のものとすることが可能である。リブ部に代替可能な凸条部ｐ１として、図５（ｂ）に示すように、断面三角形状の凹凸部を例示することができる。このように、凸条部ｐ１の形態または断面形状は、文房具ケース１の外観に関して凸条部ｐ１が使用者に及ぼす印象を考慮して、適宜のものに変更可能である。
【符号の説明】
【００６１】
１…文房具ケース
２…ケース本体
２ａ…磁石部
３…蓋部材
２１…凹部
２２…幅方向一端面部
２２ａ、２２ｂ…厚さ方向端部
３１１…ポケット部
２１ａ…表側凹部
２１ｂ…裏側凹部

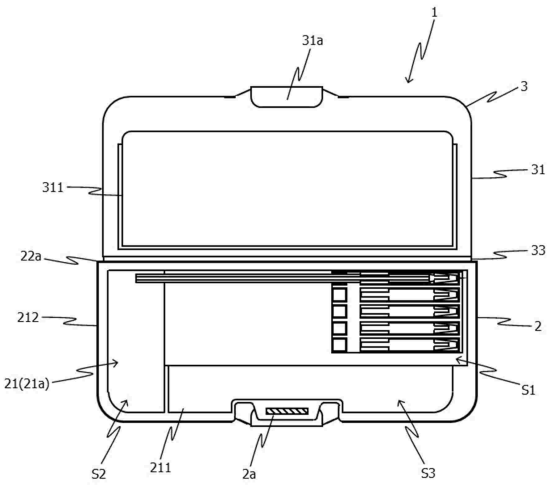
３１…表側蓋部
３２…裏側蓋部
３３…背部
３１ａ…磁着体
３２ａ…磁着体

【図面】

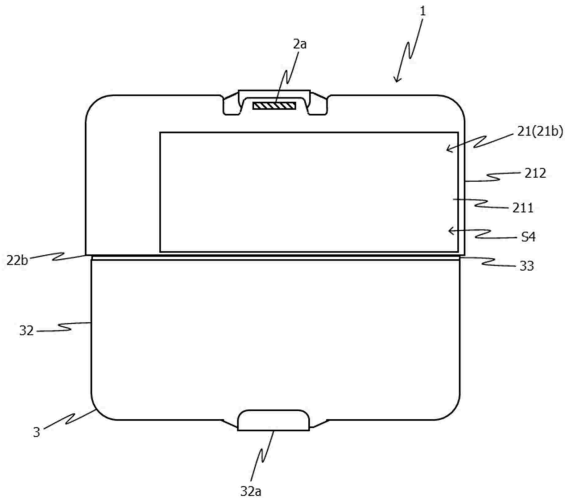
【図１】



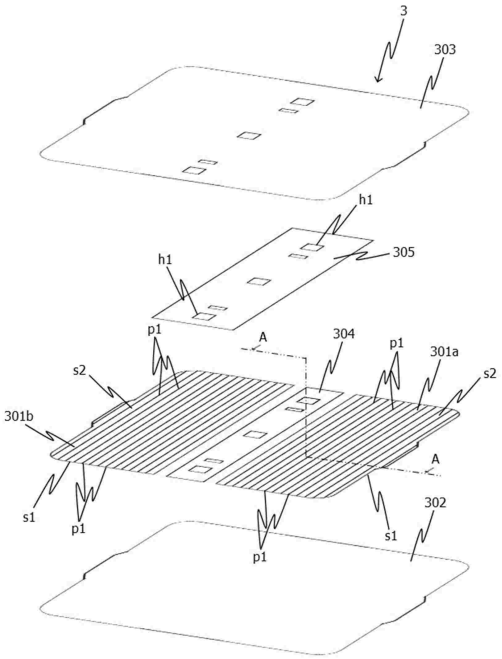

【図２】



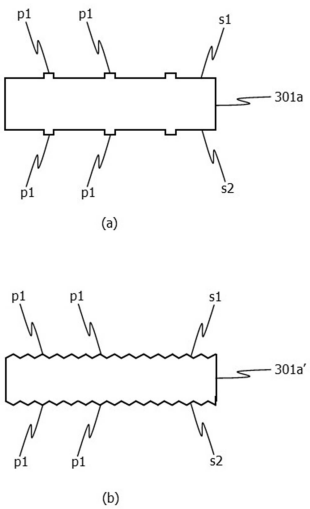
【図３】


1
2a
21(21b)
212
211
S4
33
22b
32
3
32a

【図４】


3
303
h1
305
h1
p1
A
304
p1
301a
s2
s2
301b
A
s1
p1
p1
s1
302

【図５】


p1
p1
s1
301a
p1
p1
s2
(a)
p1
p1
s1
301a'
p1
p1
s2
(b)

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５７－００５０２７（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５７－００２８２０（ＪＰ，Ｕ）
特開２０００－３２５１３１（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－２６０７３７（ＪＰ，Ａ）
登録実用新案第３２１９２３７（ＪＰ，Ｕ）
特表２００１－５１４３３６（ＪＰ，Ａ）
特開２００１－１３５９４３（ＪＰ，Ａ）
実開昭６１－０７９９２３（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５３－０８０７０２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５４－０７２１５１（ＪＰ，Ｕ）
特開平０８－０３４１９２（ＪＰ，Ａ）
特開昭６２－０５７５１０（ＪＰ，Ａ）
韓国登録実用新案第２０－０３２６９７３（ＫＲ，Ｙ１）
中国実用新案第２０３１３７３７８（ＣＮ，Ｕ）

(58)調査した分野 (Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４５Ｃ １１／００～１１／３８
Ｂ２９Ｃ ３９／００～７３／３４